

(案)

～ 自然と人の共生をめざす ～

エコパークゾーン

ガイドブック (仮称)

もくじ

はじめに	1
エコパークゾーンって何？	2
御島ゾーン	4
御島崎～香住ヶ丘の海岸を楽しもう!!	6
香椎浜の海岸を観察しよう!!	7
アイランドシティ外周緑地・護岸でリフレッシュ!!	8
御島ゾーンの「いろいろ!!」ご紹介コーナー	9
海の中では「こんなこと」や「あんなこと」をやっています!!	10
もっと豊かな海になるようアマモ場を造っています!!	11
香住ヶ丘ゾーン	12
香住ヶ丘海岸に広がる岩礁帯	14
牧の鼻照葉樹林	15
香住ヶ丘緑地	15
香住ヶ丘海岸の親水護岸	16
アイランドシティの護岸と潮だまり	17
和白干潟ゾーン	18
和白干潟	20
唐原川右岸から海の広場にかけての海浜植物群落	24
雁の巣鼻	24
塩浜海岸（護岸・遊歩道・展望台）	25
海の中道ゾーン	28
砂浜で遊ぼう	30
まみずピア	30
雁の巣レクリエーションセンター	31
雁ノ巣飛行場	31
環境保全活動に参加しよう！！	32
エコパークゾーンの歴史	33
エコパークゾーンのいきもの図鑑	34



<はじめに>

福岡は海にひらかれた都市であり、悠久の歴史の流れの中で、海を通じて大陸と深くつながり発展してきました。現代においても、アジアに近いという地理的な優位性を活かしたみなとづくりや、豊かな海「博多湾」を活かしたまちづくりを進めています。

このガイドブックでは、博多湾の東部において、**～自然と人の共生～**を掲げ、様々な取組がすすめられている**エコパークゾーン**の魅力をより多くの方に知っていただきたいとの願いを込めて作成しました。



エコパークゾーンって何？

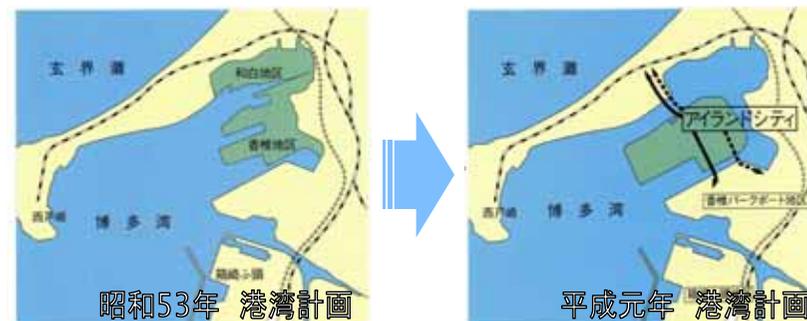
エコパークゾーンとは、国内有数の渡り鳥の飛来地であり、国の鳥獣保護区にも指定されている「和白干潟」及びその周辺海域等を含む約550haのエリアのことです。エコパークゾーンには、鳥類だけではなく多種多様な生き物がすんでおり、自然豊かな博多湾の命の源となっています。

また、140万都市・福岡にありながら、潮干狩りや散策、バードウォッチングなどが手軽に楽しめ、豊かな自然を身近に感じることのできる福岡市民の財産ともいえる価値ある空間です。



これまでの経緯

平成元年の港湾計画の改訂において、博多湾東部海域の自然海岸や和白干潟などの自然環境を保全するため、陸続きの埋立計画を島方式に変更しました。これにより保全された空間を自然と人の共生をめざす「エコパークゾーン」として、自然環境の保全・創造に向けた様々な取組を行っています。



4つのゾーン

エコパークゾーンは、広大で様々な地域特性を有していることから、地域ごとの特色を活かすため4つのゾーンに分けて、整備等を行っています。

海の中道ゾーン
砂浜に親しむゾーン

和白干潟ゾーン
干潟を中心とした
豊かないのちを育むゾーン



御島ゾーン
歴史的要素を活かした憩いのゾーン

御島ゾーン 歴史的要素を活かした憩いのゾーン

御島ゾーンは、香椎宮の末社で日本書紀にある神功皇后ゆかりの御島神社の鳥居を海上に見ることができるなど歴史的景観が残された場所となっています。

二年に一度行われる香椎宮「春季氏子大祭・神幸式」御汐井取りの神事を御島崎海岸の御汐井場で見ることもできます。

このゾーンでは、これまでに気軽に海に触れ親しめ、豊かな自然が体感できる憩いの空間となるよう海岸や海域を整備しており、多くの人々が集まるにぎわいの場となっています。

さらに、アイランドシティと香住ヶ丘を結ぶ海上遊歩道を整備予定で、これが完成すると、御島ゾーンをぐるっと一周約3kmまると楽しめます。自然観察、ウォーキング、ジョギングに是非！



<交通アクセス>

- 「香椎浜海岸」・「香椎浜北公園」へは
西鉄貝塚線「香椎駅」下車 徒歩約10分
- 西鉄バス「留学生会館前」下車 徒歩約3分
- 西鉄バス「香椎浜営業所」下車 徒歩約3分
- 「アイランドシティ外周緑地」へは
西鉄バス「アイランドシティ中央公園前」下車 徒歩8分



4



5

①御島崎～香住ヶ丘の海岸を楽しもう！！

御島ゾーンの既存の海岸線は、海に近づきにくい垂直の護岸や浸食の進んだ海岸線となっていたことから、傾斜の緩やかな護岸の整備や養浜など、水辺に親しめる海岸づくりを行っています。
今では、多くの方々が憩いの空間として利用しています。

整備前



御島崎

海に近づきにくい護岸

整備後



海を身近に感じ、触れ親しめるようになった海岸線

整備前



香住ヶ丘

浸食が進んだ海岸

整備後



海岸を保全するとともに、景観も美しかった海岸線

植物や生き物を探してみよう



【コメツキガニ】

砂質底の干潟などに生息するカニで、砂泥を小さな砂団子に丸めて巣穴の周りに並べる習性があります。

巣穴と砂団子を頼りに見つけてみよう！！



【ハマヒルガオ】

海岸の砂浜を生育環境とする植物で、春にかわいい花を咲かせる多年草です。春がきたならば是非、花を見よう！！



②香椎浜の海岸を観察しよう！！

香椎浜の前面には、万葉集に歌われている香椎潟が広がり、たくさんの海の生き物や野鳥が生命を営む場所となっています。
また、海上の御島神社の鳥居を間近に臨むことができるなど、歴史を感じ見る場所でもあります。

香椎浜北公園前面の護岸は、野鳥や干潟生物（希少種）のハクセンシオマネキ、潮間帯生物などに配慮した護岸構造とするとともに、歴史的要素を活かした整備を行っています。



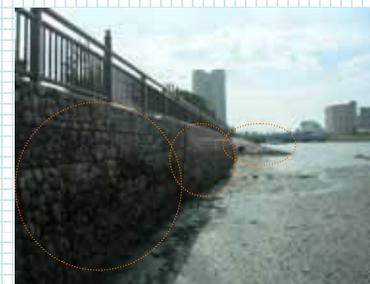
整備前



整備後



香椎浜北公園や遊歩道、護岸の整備を行っています。



【護岸整備】

干潟の生き物や野鳥の視点にたって整備しました。よく見ると色々な形をしています。
・僕たちハクセンシオマネキが生活している干潟の部分には、立入らない工夫をした工事をしてね！！たくさんの仲間達や巣穴があるから気をつけて・・・
・私たち野鳥は護岸の近くで食事や休憩をしているから、怖～い人間が近づきにくい護岸の構造にして下さいね！！遠くから見てくれたらうれしいな・・・
・僕たち潮間帯で生活する生物には、凹凸がたくさんある自然の石を使った護岸や、緩い傾斜の護岸で面積を大きく造ってくれれば生活しやすいな～！！



【歴史や生物の紹介】

「万葉集にみる香椎潟」や干潟の生き物、野鳥を紹介した看板もあります。



【ハクセンシオマネキ】

オスだけ片方のハサミが大きく白い特徴があり、オスは大きなハサミを振る「ウェービング」と呼ばれる求愛行動をとりますが、その様子が白扇を広げて潮を招いているかのように見えます。

運が良ければ見れるかも！！



【保全した松】

香椎浜の海岸沿いに植えられていた松を、整備の際に香椎浜北公園内に残して保全しました。

③アイランドシティ外周緑地・護岸でリフレッシュ！！

アイランドシティは、水と緑に囲まれた快適なまちづくりとして、人と自然が共生した空間の形成を図っています。
自然石を用いた傾斜式護岸等を整備し、新たな海生生物の創出や多くの緑地を配置し、周辺の自然環境と調和した良好な景観を創出しています。

まずはこの看板を探そう！！

こなとこにも「みどり」があるんだ・・・



せっかくなので、お弁当を食べながら景色を楽しんではどうですか？



左写真：海上に張り出した親水デッキ

右写真：生き物が利用しやすい自然石の外周護岸



～海浜プロムナード～ (人道橋)

御島ゾーンは、親水護岸や養浜・遊歩道等の整備により、多くの市民の方々が利用される親水空間となっています。アイランドシティと香住ヶ丘等の既存市街地をつなぎ、この海域を周回できる回遊ルートを整備することで、さらに魅力を増した親水空間が広がります。

これはイメージ図で、実際に整備されるものとは異なります。

④御島ゾーンの「いろいろ！！」ご紹介コーナー



御島神社は香椎宮の末社の一つであり、神功皇后が神事を行ったとされる地に社を祭ったのが始まりのようです。
古くは岩が多く、海上高くに社がありました。その後、岩が崩れ、現在のように平坦になり、満潮時にはわずかにあらわれるだけとなりました。現在は北側の岩礁に祠があるほか、南側の岩礁には石の鳥居が立っています。

【御島神社】について

香椎潟海中に鎮座し、祭神は綿津見神です。
仲哀天皇崩御、後神功皇后が神託を伺いに渡られた島で、新羅出陣の時、敵を配慮し髪を洗い「みずら」と言う男髪とされた所と言われています。
雨乞いの神として名が有ります。



2年に1度の御汐井取りです。
是非、生で見たいワンシーン！！



夏の風物詩といえば・・・✽



夏と言えばやっぱり東区花火大会ですね～。
毎年8月末～9月初旬に行われています。
夏の思い出にぜひ・・・。

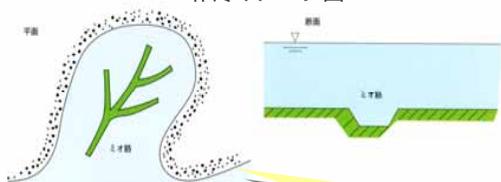
海の中では「こんなこと」や「あんなこと」をやっています！！

【覆砂（ふくさ）】 覆砂イメージ図



覆砂（ふくさ）は海底に堆積した底泥の上をきれいな砂で覆い、底泥からの栄養分の溶出を抑えたり、生物のすみやすい環境を創造する工法です。

【作漑（さくれい）】 作漑イメージ図

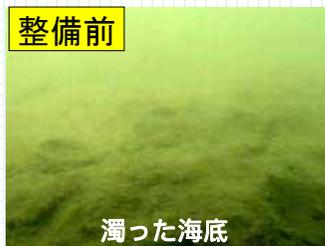


作漑（さくれい）は浅い海域・干潟域に局部的に深いみお筋を作ることで、海域内の流況を変え、海水交換を促進させる工法です。



覆砂・作漑を実施した海の中は、こんなにきれいになって、たくさん生き物の種類が増えました。

整備前



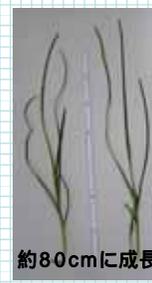
整備後



もっと豊かな海になるようアマモ場を造っています！！



アマモとは砂泥質の浅い海に育つ植物で、酸素を放出し、魚介類の産卵場や生息場になるなど「海のゆりかご」の役目を果たし、生物のすみやすい環境を創出する効果があります。



豊かな海を育むアマモ場



・海の生き物がたくさん集まるアマモ場となりました。

地元小学校との連携・共働



・自然に触れ、学び、豊かな海づくりに頑張る子供達です。



香住ヶ丘ゾーン 水辺と緑に親しむゾーン

砂浜も見られますが、エコパークゾーンでは珍しい磯浜が広がっています。そして背後には、牧の鼻照葉樹林（牧の鼻公園）などの緑地があり、イソガニなど磯浜特有の生物が見られるとともに、緑あふれる景色を楽しむことができます。

また、対岸のアイランドシティまでの距離が約250mと非常に近いことも特徴の一つです。アイランドシティでは、人が海と触れあいやすいように階段式の護岸やタイドプール（潮だまり）も整備しており、市民憩いの散策路になっています。



【香住ヶ丘ゾーン遠景（アイランドシティから撮影）】



アイランドシティの緑地と遊歩道
（対岸は香住ヶ丘海岸）



＜交通アクセス＞

- 「牧の鼻公園」へは
西鉄バス「牧の鼻公園前」下車すぐ
西鉄貝塚線「香椎花園前」下車徒歩15分
- 「香住ヶ丘海岸」へは
西鉄バス「香住ヶ丘五丁目」下車徒歩3分
西鉄貝塚線「香椎花園前」下車徒歩15分
- 「アイランドシティ」へは
西鉄バス「アイランドシティ」下車徒歩8分



牧の鼻 照葉樹林



香住ヶ丘海岸に広がる岩礁帯

香住ヶ丘海岸に広がる岩礁帯



香住ヶ丘南側の岩礁帯



親水護岸付近の岩礁帯



岩礁で休息するチュウシャクシギなどの野鳥



岩礁に付着したフジツボ

データBOX エコパークゾーンの海岸環境の分布



コラム ~鳥にとっての岩礁帯~

上の写真にもあるように、岩礁は鳥にとって貴重な休息場となっています。満潮時に周囲が海に囲まれて安全というだけでなく、ハヤブサなど上空から襲ってくる敵からも身を守るため、肌の色が岩礁と同じような色をした小型の鳥は身動きせず、じっと休息しています。右の写真には何羽の鳥が写っているかわかりますか？よく見てみてください！



図9・海王

牧の鼻照葉樹林



牧の鼻公園一体は照葉樹林地となっており、海から牧の鼻の高台まで緑が繋がっています。一部は緑地保全地区にも指定されています。

このような海岸の斜面にある森林は、海面に森林の影が映ることなどにより魚が集まる効果があり、“魚付林（うかつきりん）”と言われています。



木のつけ根に潜むアカテガニ

牧の鼻の高台が牧の鼻公園です。公園は緑が豊かで、公園の中に入ると緑に囲まれ、海の近くにいることを忘れそうになりますが、アカテガニが土手の巣穴や木のつけ根などに潜んでおり、海に近いことを思い出させてくれます。



ハマボウの木



海辺にはハイビスカスの仲間のハマボウも自生し、7月には美しい花を楽しませてくれます。

香住ヶ丘緑地



御島海岸のすぐそばにある濃い緑の塊が香住ヶ丘緑地です。ここも牧の鼻と同様に緑地保全地区に指定されています。緑地の一部では地盤が露出して地層を観察することができます。遙か太古からの大地の変化を観察してみませんか。

香住ヶ丘海岸の親水護岸

香住ヶ丘ゾーンでは、斜面が崩落していた一部の海浜で、安全性を高め、さらには海岸に親しみを持ってもらえるよう、階段式の自然石護岸と遊歩道を整備しました。整備後には、磯遊びや潮干狩りをしている人も見られるようになっています。



遊歩道脇にあるハクセンシオマネキの石像

香住ヶ丘海岸の before & after



整備前



整備後

一部が崩落した海岸線（木杭等で崩落防止）人が海と触れあえて見た目も美しい海岸線



アイランドシティの護岸と潮だまり（タイドプール）

海の中に海藻が生い茂ると、稚魚が集まったり、ナマコや貝などの生き物が増えて、その場所の環境が豊かになります。アイランドシティでは、護岸に沿って海藻が生い茂り、豊かな環境が形成されるように、傾斜の緩やかな護岸を採用しています。また、人が海辺に下りやすいように、一部で階段式の護岸や潮だまり（タイドプール）も整備しています。



自然石を使った緩やかな傾斜の護岸 海辺に下りられる階段式の護岸



タマハハキモクの藻場



藻場に集まる稚魚



整備した潮だまり（タイドプール）



生き物観察会を実施

あ！カニだ！！



コラム ～潮だまりの特徴～

潮だまりは、潮が引いても海水が取り残される場所のことで、いろいろな種類の生き物が見られます。潮だまりは生き物観察に適した場所で、干潮時を見計らって行くだけで誰でも手軽に生き物観察を楽しめます。

和白干潟ゾーン 干潟を中心とした豊かないのちを育むゾーン

広大な干潟が広がり、海辺でしか見られない植物群落も見られる豊かな自然環境が残された場所で、野鳥や海生生物など多様な生態系を支える場所となっています。

春になると毎年多くの人々が潮干狩りを楽しみ、秋から春にかけては多くの渡り鳥が飛来するため、バードウォッチングを楽しむこともできるなど、自然と触れあうには格好の場所です。

平成21年には、干潟としては全国で唯一「にほんの里100選」に選ばれました。



和白干潟を一望できる展望台（塩浜海岸）



雁の巣鼻



18 【雁の巣海岸全景】



<交通アクセス>

- 「和白干潟(海の広場)」へは
西鉄貝塚線「唐原」下車 徒歩7分
JR香椎線「和白」下車徒歩12分
- 「雁の巣海岸(雁の巣鼻)」へは
西鉄バス「雁の巣レクリエーションセンター」下車 徒歩15分
JR香椎線「雁の巣」下車徒歩20分
- 「塩浜海岸(遊歩道・展望台)」へは
西鉄バス「塩浜」下車徒歩10分



海岸に広がるヨシ原



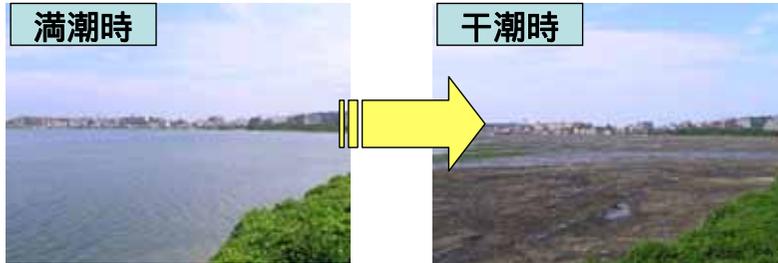
干潟で休息するツクシガモ



【和白干潟遠景（牧の鼻から撮影）】 19

和白干潟

和白干潟では大潮時に、約80ヘクタール(ヤフードーム約12個分)の干潟が表れます。干潟表面は砂が多く、踏みしめると固い感じがします。貝、カニ、ゴカイなどがたくさん生息しており、これらの生き物を餌とする魚や鳥たちも集まってくるため、たくさんの生き物が暮らす場所になっています。



多くの生き物が暮らすだけでなく、春は潮干狩り、秋から春にかけてはバードウォッチングを楽しむことができ、手軽に自然と触れあうことができます。

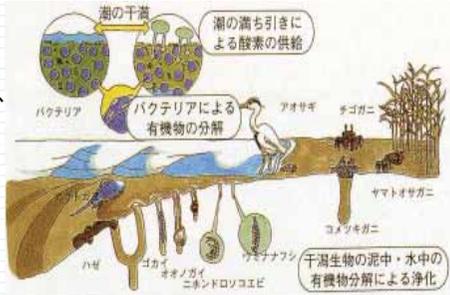


潮干狩り

バードウォッチング

コラム～干潟の役割～

干潟はたくさんの生き物が暮らす場所としても重要ですが、他にも役割があります。皆さんの生活から出された排水の汚れをアサリやゴカイ等の干潟の生き物がきれいにしてきているのです。さらには、市民の憩いの場としての役割も担っています。



和白干潟の楽しみ方

その1 - 潮干狩り -



事前のプランニング

潮汐表を見て干潮時間をチェック！よく潮が引く大潮が狙い目！
潮汐の情報は新聞や「福岡市海づり公園ホームページ」で見られるよ！

必須アイテム

熊手 バケツ(アサリ持ち帰り用) 長靴 帽子

アサリはどんな場所に多い？

泥の場所よりも砂の場所
できるだけ干上がる時間が少ない場所(できるだけ沖側)
アサリは5cm~10cmくらい潜っている。(深く掘りすぎてもない)

おばあちゃんの知恵袋

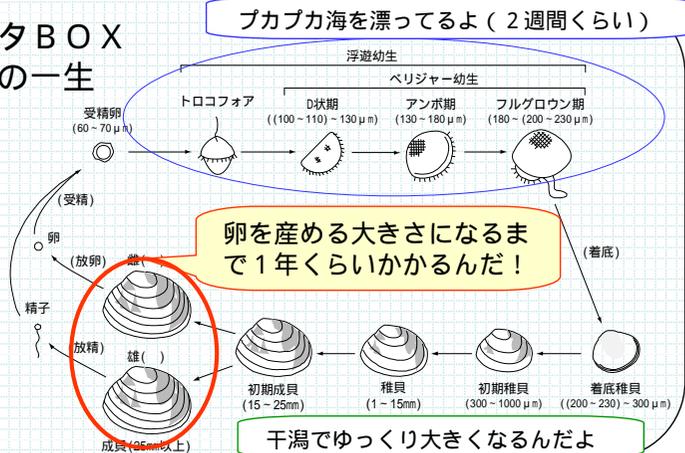
アサリの砂抜きは潮干狩りをした場所の海水を持ち帰って使うと早いよ！！

コラム ~ 潮干狩りの流儀 ~

潮干狩りにはルールがあります。このルールを守って楽しみましょう！
ルールは皆さんがずっと潮干狩りを続けられるように(アサリが卵を産み続けられるように)福岡県規則などで設けられています。

- 1. 3cm以下のアサリは獲らない
- 2. 幅3.5cm以上のじょれんは使わない

データBOX アサリの一生



和白干潟の楽しみ方

その2 - バードウォッチング -

事前のプランニング

図鑑などを見て、今の季節に見られる鳥の種類をチェック！
 夏はサギが中心で、鳥の数は少ない。
 春と秋は世界を又にかけて移動するシギやチドリの仲間が立ち寄り。
 冬はたくさんのカモを始めたくさんの渡り鳥が飛来する。
 初めての人はサイズが大きくて、たくさん飛来するカモが見やすいかも



和白干潟のカモたち



必須アイテム

双眼鏡 図鑑（見た鳥の名前がすぐ分かる）

観察しやすい場所

海の広場 塩浜海岸（遊歩道・展望台） 雁の巣海岸

観察のマナー

野鳥を驚かさないうちに「しずかに、そーっと」観察しよう
 野鳥に近づきすぎない、飛び立たせないようにしよう
 近隣住民の生活、通行の邪魔にならないようにしよう
 生物採集は控えて、自然はそのままに ゴミは持ち帰りましょう

コラム ~ 渡りのルート ~

福岡市はシベリアなどからサハリン経由で日本を縦断し南方へ渡る渡り鳥のルートと、朝鮮半島から九州を経由し南方へ渡るルートの交差する場所です。春と秋にはシギやチドリが渡りの中継地として和白干潟を利用します。秋は北から南へ移動し、最終的にはオーストラリアまで飛んでいくものもいます。また、冬にはシベリアからたくさんのカモも越冬地としてやって来ます。

シギ・チドリの渡りルート



和白干潟の楽しみ方

その3 - 干潟の生き物観察（カニや貝を探してみよう！） -

事前のプランニング

潮汐表を見て干潮時間をチェック！
 潮汐の情報は新聞や「福岡市海づり公園ホームページ」で見られるよ！



必須アイテム

スコップ、熊手など 長靴 帽子

カニや貝を探してみよう！

カニは夏にたくさん見つけられるよ。
 何種類見つけられるかな。
 カニも貝も、種類によってそれぞれ棲んでいる場所が違うよ。
 見つけたカニや貝の名前を調べてみよう！（巻末の図鑑でチェック）

データBOX 和白干潟で見られるカニの生息場所



その4 - 干潟の植物観察（ハママツナの紅葉を見よう！） -

事前のプランニング

11月頃に紅葉します

紅葉したハママツナ



よく見られる場所

海の広場から唐原川にかけての海岸線

夏頃のハママツナ



唐原川右岸から海の広場にかけての海浜植物群落

この一帯では、日本の海岸の原風景であるヨシ原が海岸線に広がり、博多湾では少なくなった貴重な海辺の自然景観を楽しむことができます。

また、海岸でしか育つことのできない植物（海浜植物）が10種類以上観察できる貴重な場所でもあります。例えば、



ヨシ



ウラギク



シバナ

他には、ヒトモトスキ、ハマツナ、シオクグ、ナガミノオニシバ、ハマニンニク、イソホウキギ、ホソバナハマアカザ など



海浜植物群落 航空写真

雁の巣鼻

雁の巣鼻は長年の潮の流れによって砂が溜まってできた砂嘴です。

この一帯は、海の広場からのものとはまたひと味違う素晴らしい自然の景観を楽しませてくれます。

また、海岸でしか育つことのできない植物（海浜植物）の観察もでき、雁の巣鼻で見られるハマニンニクは、ここ博多湾が生育場所の南限であるといわれています。

砂嘴：潮の流れで運ばれてきた砂が堆積してできた嘴（くちばし）形の地形



ハマニンニク群落



雁の巣鼻



雁の巣鼻 航空写真

塩浜海岸（護岸・遊歩道・展望台）



江戸時代までは塩田として利用されていた地域で、護岸も100年以上前に整備されたものでしたが、老朽化が激しかったため、生き物の生息環境にも配慮した護岸に改修しました。それと同時に、海辺を散歩できるように遊歩道や展望台も整備し、今では市民の憩いの場として利用されています。



護岸沿いの遊歩道



鳥に関する看板も立ち、特に冬場はバードウォッチングに最適な展望台

塩浜護岸の before & after

整備前



老朽化が激しかった護岸

整備後



生き物の生息にも配慮して整備した護岸

市民団体が植林したクロマツ

塩浜護岸の生き物への配慮

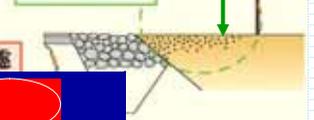
サギ



イソガニ



植物への配慮



野鳥への配慮

野鳥の休息場

磯の生物への配慮

をういて傾斜を緩く
どの生き物
の移動が可能

DLは“最低水面”とも言われ、DL 0.00mが概ね1年間で最も潮が引いた時の海水面の高さに相当します。

コラム ～アオサのお話～

アオサは海の栄養を吸収して育つ海藻で、富栄養化した海域で発生します。

博多湾も富栄養化しており、閉鎖性の海域であるため海水交換が悪く、水深も浅くて海藻が育つための光も届くため、遅くとも昭和50年代前半には大量発生が確認されています。

アオサはよく悪者扱いされますが、必ずしも悪者というわけではありません。適度にあるアオサは干潟の生き物や鳥たちの餌になるのです。

しかし、大量に発生すると、腐って悪臭の原因になります。また、アサリなどの干潟の生き物に影響を及ぼすこともあります。

そこで福岡市では、周辺への悪臭防止を目的として、アオサの回収を行っています。

回収したアオサは処分していますが、アオサは海藻です。ただ捨てるだけではもったいないのではないかと・・・

そこで、平成18年度から、市民団体と共働で、アオサの堆肥化に取り組んでいます。

また、さらに一歩進めて、「食材化」についての研究も行いました。アオサ饅頭、アオサパスタ、アオサパン、どれもなかなかの出来映えでしたが、アオサを練り込んだ「かりんとう」を市民団体と共働で商品化することに成功しました。

アオサを使ったかりんとう「あおさぼう」を「食べる環境活動」ということで販売しています。ぜひ一度お試しください。

購入などお問い合わせは
 特定非営利活動法人 循環生活研究所
 電話番号 405-5217 まで



干潟を覆うアオサ



海からのアオサ回収



アオサの堆肥化の様子



アオサを使ったかりんとう

コラム ～みんなで守り育てるエコパークゾーン～

エコパークゾーンの環境をよりよいものにしていくには、みんなが一緒になって取り組んでいくことが大切です。ここでは、既に始まっているいくつかの取組を紹介します。

1. 和白白干潟保全のつどい

和白白干潟を中心に活動する市民団体や行政が、毎月1回意見交換をしながら、和白白干潟の環境保全に向けた共働事業を企画・実施しています。

イベントのお知らせは、市政だより等で行っています。ぜひ参加してみてください。楽しいよ！



和白白干潟をぐるっと一周



集めたアオサでお絵描き

2. エコパークゾーンの水域利用

エコパークゾーンをよりよい環境で未来に残すため、エコパークゾーンを利用する各団体、行政、周辺住民などが集まり自主ルールを定めました。

みんなでルールを守っていきましょう。

■海の中道ゾーン

- ・動力船によるマリンスポーツ・レジャーでの利用ができる区域
- ・非動力船によるマリンスポーツ・レジャーでの利用を禁止する区域
- ・潮干狩りや、水生生物の観察などのレクリエーションを楽しむ区域

■和白白干潟ゾーン・香住ヶ丘ゾーン

(和白白干潟・国指定鳥獣保護区)

- ・マリンスポーツ・レジャーでの利用を禁止する区域
- ・潮干狩りや、水生生物の観察などのレクリエーションを楽しむ区域



対象エリア

■御島ゾーン・100m水路

- ・非動力船によるマリンスポーツ・レジャーでの利用ができる区域
- ・動力船によるマリンスポーツでの利用を禁止する区域
- ・潮干狩りや、水生生物の観察などのレクリエーションを楽しむ区域

海の中道ゾーン 砂浜に親しむゾーン

海の中道ゾーンの特長は、日本の白砂青松100選にも選ばれた美しい砂浜です。

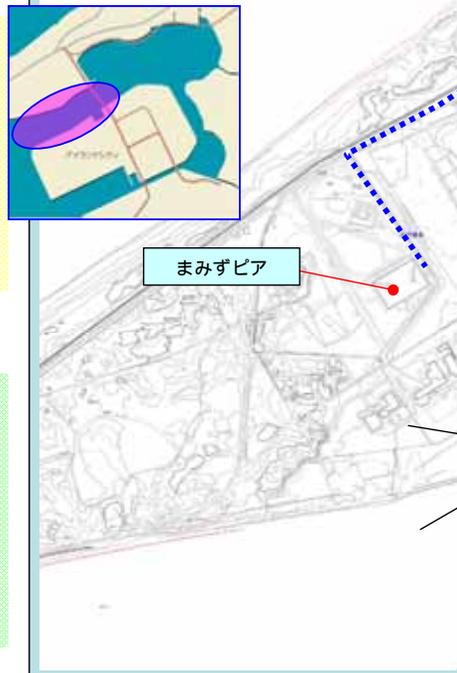
このゾーンでは、砂浜をきちんと保全していくことが目標となっています。

潮の香りがする砂浜で、波の音を聞きながら、夕日の沈む博多湾をぼんやり眺めていると、自然の癒し効果で元気になること間違いなし！

元気を分けてもらったら、お返しに、目についたゴミを拾って帰りましょうね。



海の中道大橋とアイランドシティ



まみずピア



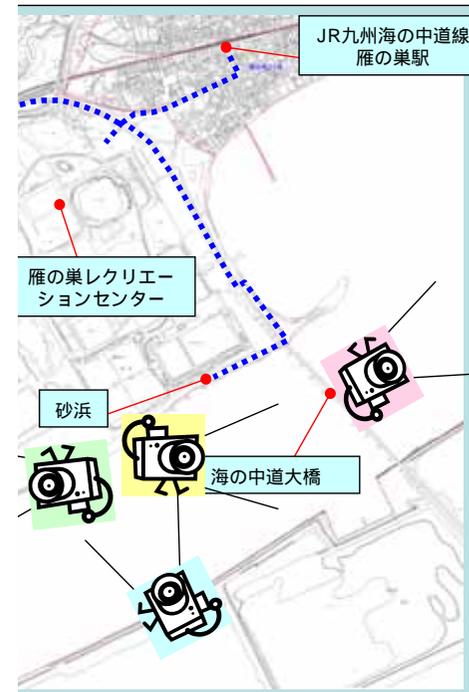
松原と砂浜が続く風景

2 8



<交通アクセス>

- 砂浜
JR九州海の中道線雁の巣駅から徒歩20分
- まみずピア(海の中道奈多海水淡水化センター)
JR九州海の中道線雁の巣駅から徒歩22分
- 雁の巣レクリエーションセンター
JR九州海の中道線雁の巣駅から徒歩7分



JR九州海の中道線
雁の巣駅

雁の巣レクリエーションセンター

砂浜

海の中道大橋



アイランドシティからみた海の中道の海岸



海の中道大橋から和白干潟方面

2 9



波に洗われる貝がら



砂浜にできた「さざ波模様」

砂浜で遊ぼう 海の中道ゾーン

海の中道の海岸は、「日本の白砂青松100選」や「日本の渚100選」にも選ばれている、すばらしい風景の場所です。

貝がらを拾ってもよし、カニをみつけてもよし、可憐な花をさがしてもよし。寄せては返す、波の力が砂浜に描いた「さざ波模様」も見のがさないでね！



岩に隠れるカニ



ハマゴウの青い花

まみずピア



「まみずピア」施設全景



高圧RO膜

ここは海水から飲み水を作る施設で、雨の少ないときでも、安定して飲み水を供給することができます。1日に最大5万立方メートルの飲み水を作ることができ、海水淡水化施設としては、日本一の規模になります。

下の写真は海水から真水だけを取り出す、高圧RO膜という装置です。



まみずピア

施設の見学には予約が必要です
TEL 092-608-6262

雁の巣レクリエーションセンター

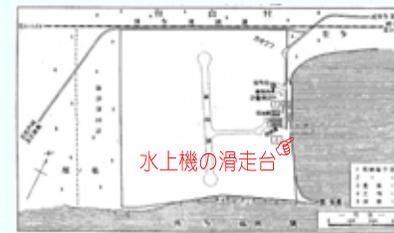


雁の巣レクリエーションセンターは、健全なレクリエーション活動に寄与するため、設置された福岡市の施設です。野球場14面、ソフトボール場5面、球技場6面、テニスコート4面のほか児童遊戯広場を備え、1周2.7kmのサイクリングロードがあります。また、野球やサッカーなどのスポーツ教室も開催されています。



雁の巣球場ではプロ野球ウエスタンリーグの公式戦やソフトバンクホークスの練習が、雁の巣球場ではJリーグ・アビスパ福岡の練習が行われています。

雁の巣飛行場



水上機の滑走台

福岡第一飛行場図面（1937年）



戦後の航空写真（1956年）

上に紹介した雁の巣レクリエーションセンターがあるところは、昔は空港でした。1936年に開港した雁ノ巣飛行場は、戦前の日本では最大の民間国際空港でした。戦後は米軍に接収され、1972年に返還されましたが、その後、飛行場として使われることはありませんでした。図面の右側に描かれている水上機の滑走台の跡は現在も残っています。このほかにも博多湾には昔、名島に水上飛行場もありました。



（参考）名島水上飛行場

環境保全活動に参加しよう！！

エコパークゾーンでは様々な市民団体が環境保全活動に取り組んでいます。

また、団体の枠を超えて和白干潟の環境保全に向けたイベントを企画、実施している「和白干潟保全のつどい」(p27)や、市民・企業・行政が協力して行う一斉清掃「ラブアース・クリーンアップ」という活動も毎年6月頃に行われています。

あなたもこの皆さんの活動に参加してみませんか？



ラブアース・クリーンアップの風景

こんなに集まりました。

・和白干潟保全のつどい 問い合わせ先
福岡市港湾局 環境対策課 TEL:092-282-7154
ホームページ FAX:092-282-7772
<http://www.port-of-hakata.or.jp/ecology/parkzone/index.html>

・ウエットランドフォーラムのホームページ
<http://homepage3.nifty.com/wetlandforum/>

・NPO法人 循環生活研究所のホームページ
<http://www.jun-namaken.com/>

・日本野鳥の会福岡支部のホームページ
<http://wbsjfukuoka.blog.fc2.com/>

・ふくおか湿地保全研究会のホームページ
<http://wetland-research.org/>

・和白干潟を守る会のホームページ
<http://www.14.ocn.ne.jp/~hamasigi/>

・ラブアース・クリーンアップのホームページ
<http://www.love-earth-jp.net/loveearth/index.html>

福岡市内の環境市民団体はコチラ(福岡市環境局ホームページ)
<http://kankyo.city.fukuoka.lg.jp/katsudo/dantai/index.php>

エコパークゾーンの歴史

緑：実施した施策
黒：エコパークゾーンでの出来事
青：アイランドシティの歴史

元禄16年	1703	黒田藩の命により和白(塩浜)で塩田による製塩が開始
安政5年	1858	塩浜の新堤防が完成
明治43年	1910	明治政府の指導により製塩業が廃止
昭和11年	1936	雁の巣飛行場が完成
昭和47年	1972	雁の巣飛行場がアメリカより返還
昭和50年	1975	東部水処理センター、和白水処理センターの運転開始
昭和56年	1981	国営海の中道海浜公園開園 西戸崎水処理センターの運転開始
昭和62年	1987	海の中道が「日本の白砂青松100選」に選定
平成元年	1989	港湾計画の改訂(アイランドシティへの変更)
平成3年	1991	第1回東区花火大会開催
平成6年	1994	アイランドシティ工事着工
平成8年	1996	アオサ海域回収開始 海の中道が「日本の渚100選」に選定
平成9年	1997	「エコパークゾーン整備基本計画」策定 御島ゾーン護岸整備開始(平成17年終了) 御島ゾーン覆砂開始(平成17年終了)
平成10年	1998	御島ゾーン作濤開始(平成13年終了)
平成11年	1999	市内全ての処理場で下水の高度処理(リン除去)完全実施
平成12年	2000	香住ヶ丘ゾーン護岸整備
平成13年	2001	和白干潟が環境省の重要湿地500に指定
平成14年	2002	海の中道大橋開通
平成15年	2003	和白干潟が国鳥獣保護区に指定 塩浜地区護岸整備開始(平成20年終了)
平成17年	2005	海の中道奈多海水淡水化センター「まみずびあ」供用開始 御島ゾーンのアマモ場づくり開始(平成20年終了) 「第22回全国都市緑化フェア」アイランドシティで開催 「照葉のまち」住宅入居開始
平成18年	2006	「和白干潟保全のつどい」立ち上げ 利用者や地域による水域利用ルールづくり
平成19年	2007	アオサ堆肥の普及に向けた取り組み開始 下水の高度処理(窒素除去)の一部開始 アイランドシティ中央公園全面開園
平成21年	2009	アオサかりんとう「博多発六丁目のあおさぼう」の販売開始 和白干潟が「にほんの里100選」に選定 和白干潟ゾーンのアマモ場づくり開始

和白干潟の楽しみ方

～はじめに～



海辺に出る服装など

靴

- ・長靴など水に浸かってもよく、すべりにくい靴がお勧め！
- ・足をしっかり守ってくれることも大切！
- ・サンダルは滑る上に脱げやすい。なのでNG！！
- ・濡れてもよければ履き慣れた運動靴でもよい。

帽子

- ・海は日陰がないので暑さや紫外線対策のためには必需品！

厚手の手袋

- ・とがった貝殻や漂着物などで手を切らないように！軍手がお勧め！！

長袖・長ズボン

- ・日焼けや紫外線、そして転んだ時のためにも半袖・半ズボンはNG！！

その他

- ・水分補給に水筒、濡れたり汚れたりしやすいので着替えとタオルと手足洗い用の水(ポリタンク入り)があると便利
- ・救急箱の中には擦り傷に対応できる消毒液、絆創膏、ガーゼが必須

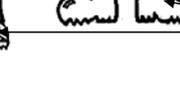
その他のアドバイス

- ☆干潮時間のチェックを忘れずに！潮の引いている時間を狙って行こう！
(新聞や「福岡市海づり公園ホームページ」で見られます)
- ☆トイレはないので、先に済ませておこう！
- ☆岩場はすべりやすいので走らない！
- ☆岩や石はぐらぐらしたものも多いので乗らない！
- ☆捕まえた生き物は海に帰そう！(アサリはいいけど。。。)
- ☆ひっくり返した石を元通りにしたり、できるだけ元の状態に戻して帰ろう！
- ☆ゴミは持ち帰ろう！



生き物を見るなら、くま手、スコップ、ふるい、生き物を入れるバケツ、ピンセット、カメラ、筆記用具、図鑑なんかがあると楽しいよね！！

帽子



軍手

長袖・長ズボン

長靴 or 濡れてもよければ運動靴

小さい子は危ないから大人の人と一緒に行ってね！！砂の中、潮だまり、石の下や物陰に生き物がよくいるよ。

エコパークゾーンの いきもの図鑑

エコパークゾーンで見られる生き物 ～ カニやエビ、ゴカイの仲間 ～

アシハラガニ(葦原蟹)



河口付近のアシ原や草むら、土手などに巣穴を掘って生息する。甲らや足は暗緑褐色で、はさみは淡黄色。
大きさ：
(甲幅：3cm程度)

クロベンケイガニ(黒弁慶蟹)



河口付近の草むら、土手などに巣穴を掘って生息する。体の色は紫褐色ではさみは淡白色。足にたくさん毛が生えている。
(甲幅：3cm程度)

ハマガニ(浜蟹)



河口付近の草むら、土手などに巣穴を掘って生息する。全体的な体の色は紫褐色だが、甲らや足などに橙(オレンジ)色の縁取りがある。
(甲幅：4.5cm程度)

アカテガニ(赤手蟹)



海の近くの山や森、河口の草むらなどに巣穴を掘って生息する。甲らの側面に切れ込みはない。その名の通りハサミが赤いのでアカテガニ。
(甲幅：3.5cm程度)

コメツキガニ(米搗蟹)



河口や内湾の砂浜に巣穴を掘って生息する。甲らは丸みがあり、目が飛び出ている。餌を食べた後、砂団子を作り、巣穴の周りに並べる習性がある。
(甲幅：1cm程度)

春から夏には、オスが背伸びをして両方のはさみを振り下ろすウェービング(Waving)という求愛行動がみられ、この行動が臼と杵で米をつく動作に似ているためこの和名がついたとされている。

ヤマトオサガニ(大和長蟹)



内湾や河口付近の軟泥底に生息し、干潟に集団で見られる。甲らは横長の長方形で細長い目と特徴的なはさみを持っている。
(甲幅：3.5cm程度)

マメコブシガニ(豆拳蟹)



甲らは丸く、拳の形をしている。特徴は歩く時、横だけでなく前に匍匐全身のように歩く。春から夏にかけて、オスがメスを抱えて歩く姿が見れる。
(甲長：1cm程度)

ハクセンシオマネキ(白扇潮招き)



干潟に巣穴を作って生活している。潮が引いているときに砂の上で活動する。メスのハサミは左右ともに小さいが、オスでは左右のどちらかが白くて大きくなるのが特徴。
(甲幅：2cm程度)

エコパークゾーンで見られる生き物 ～ カニやエビ、ゴカイの仲間 ～

イソガニ(磯蟹)

イソガニ写真

磯・岩場の石のすき間や石の下にひそんでいる。はさみの間に膜の袋がある。(甲幅:2cm程度)

クルマエビ(車海老)



内湾の砂底や砂泥底に生息する。日中は砂中に潜っているため、夜間に観察されることが多い。(体長:15cm程度)

フナムシ(船虫)



体長は最大5cmほどで、等脚類の中でも大型である。体は上から押しつぶされたように平たく、多くの節にわかれ、7対の歩脚がある。頭部には長い触角と大きな複眼があり、尾部には2つに枝分かれた尾脚が1対ある。

ワレカラ(破殻)



ワレカラ写真(仮)

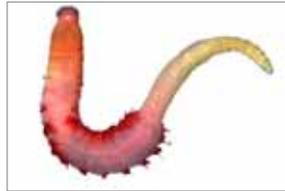
ワレカラは数mmから数cmほどの甲殻類で、海藻の上などを生活の場としている。小さいけれどごく普通に見られる動物で、海藻を食べればワレカラも知らないうちに食べていることから「ワレカラ食わぬ上人なし」という諺(ことわざ)がある。

ゴカイ



円筒形の細長い体で、内湾や河口の干潟で砂泥質の海底に生息する。100前後の体節が並び頭・胴・尾の3部に区分され頭部に2対の目と4対の触角がある。

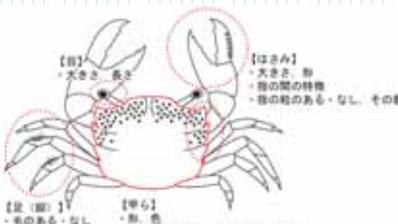
タマシキゴカイ



太短い体で、太くてエラを持つ体前部と、細い尾部を持つ。海岸の砂泥干潟にU字形の巣を掘ってすみ、肛門のある方の巣穴入口にとぐるを巻いた糞塊を積む。

< カニの種類の見分け方 >

右図のように、カニの【はさみ・目・足・甲ら】には、それぞれ特徴があります。この特徴をよく観察すると種類を見分けることができます。また、行動や巣穴も見分ける特徴になります。



図鑑2

< ゴカイの役割 >

ゴカイ類は砂の中で生活しています。干潟の有機物を餌にしており、自然の浄化作用を持っています。同時にシギ・チドリなどの渡り鳥の餌として生態系の重要な役割を担っています。

エコパークゾーンで見られる生き物 ～ 魚など ～

マハゼ(真沙魚)



体型はやや細長い。体色は淡褐色で、体側中央に不規則な暗褐色斑が縦に並ぶ。尾びれの下部1/3は無斑である。第1背びれの後端に明瞭な1個の黒色斑がある。(体長:25cm程度)

ボラ(鱧)



ボラ写真(仮)

体はやや側扁し、頭部はやや扁平である。尾びれの後縁は深く切れ込む。眼にはよく発達した脂腺(しけん(透明膜状のまぶた))をもつのが特徴である。(体長:60cm程度)

アカエイ(赤鰐)



エイ写真(仮)

多くのエイは、ごく平らな体をしていて、長く伸びた鞭(むち)状の尾を持つ。背びれが退化するものも多く、アカエイなどではこれが毒針に変化している。(体盤幅:50cm程度)

スズキ(鱈)



スズキ写真(仮)

体型は円柱状で側扁し、口は大きく、下あごが上あごより前に出る。体色は背中側が緑黒色-灰緑色、体側から腹部にかけて銀白色をしている。(体長:1m程度)

コウイカ(甲烏賊)



コウイカ写真(仮)

外套膜(がいとう)は背腹にやや扁平(へんあつ)されたドーム形。左右両側には全縁にわたってひれがある。初夏になると内湾に集まって、海藻や沈木などに直径1センチメートルぐらいのブドウの実状をした卵を、1個ずつ密着させて産み付ける。(外套長:17cm程度)

ナマコ(海鼠)



ナマコは、棘皮動物門ナマコ綱に属する海生の動物の総称。世界に約1,500種、日本にはそのうち200種ほどが分布する。食用になるのは、マナマコなど約30種類。寿命は約5~10年。(体長:20~30cm程度)

< コラム >

浅海域の重要性: とくに定まった専門用語ではなく、いろいろな定義があります。干潟などを含む水深10m程度までの浅い海域を想定したりします。

このような干潟・藻場などを含む浅海域は、水産資源にとって重要なばかりでなく、自然環境保全上その役割の重要性が高く、有機物分解速度などが高く、水質浄化能力が高いと言われています。

図鑑3



ヒドリガモ(冬鳥・全長49cm)

和白干潟で最も多く見られる陸ガモで海藻を好んで食べ、アオサもよく食べている。雄成鳥は頭から胸は茶褐色で額から頭頂がクリーム色。



オナガガモ(冬鳥・全長♂75cm)

他の陸ガモに比べて体が長く、文字どおりの長い尾を水上に立てて逆立ちで水草などを採餌する。雄成鳥は頭部から後頭が黒褐色、前頭から胸が白色。

陸ガモ類



マガモ(冬鳥・全長59cm)

家禽として飼育されるアヒルの原種で日中は水面で休み、夕方以降に水草や種子を採餌することが多い。雄成鳥は緑色の頭と黄色のくちばしが目印。



ツクシガモ(冬鳥・全長63cm)

日本では九州北部以外ではあまり見ることのできない大型のカモで、雄雌ともに鮮やかな色彩が特徴。干潟の上を歩きながら二枚貝、甲殻類等を採餌。



カルガモ(留鳥・全長61cm)

日本各地で普通に繁殖する唯一のカモ類。水草や種子が主食であるが水生動物も食べる雑食のカモ。くちばしの先に黄色い模様があるのが目印。



オカヨシガモ(冬鳥・全長50cm)

地味な色のカモで、他のカモの群れの中に数羽混ざっていることが多い。餌は水草や種子で、夕方以降に採餌することが多い。



コガモ(冬鳥・全長38cm)

日本のカモ類では最小。藻類や小さな種子を採餌することが多い。雄成鳥は、眼のまわりから後頭にかけて緑色で尻に三角形をした黄色の斑を持つ。

陸ガモ類



ハンビロガモ(冬鳥・全長50cm)

スコップのような形をした大きなくちばしが特徴。水面に円を描いてくちばしをつけて泳ぎながら水を吸い込み、プランクトンや種子をろ過して食べる。



スズガモ(冬鳥・全長45cm)

大群で海面に浮かぶ。海に潜って貝類や甲殻類を好んで採餌する。貝は丸飲みして胃で砕く。雄成鳥は胸、尾が黒く、頭部は緑色や紫色の光沢がある。

海ガモ類



ホシハジロ(冬鳥・全長45cm)

数羽から数十羽の群れにすることが多く、海に潜って採餌する。動物質のものも食べるが、水草をよく食べる。雄成鳥は茶色い頭と黒い胸をしている。



キンクロハジロ(冬鳥・全長40cm)

数羽から数十羽の群れにすることが多く、海に潜って採餌する。貝や甲殻類のほか水草も食べる。雄成鳥は腹だけが白く後頭に垂れ下がった冠羽がある。

カイツブリ類



カンムリカイツブリ(冬鳥・全長56cm)

日本のカイツブリ類で最大。海に潜って魚類を好んで食べる。鋭く尖ったくちばしと長い首をもち、頭部に黒と赤褐色の飾り羽をもつ。雌雄同色。

シギ・チドリ類



ハマシギ(旅鳥/冬鳥・全長21cm)

博多湾で最も多く見られるシギチドリ類。群れで行動し、密集して飛び回る。多い群れは1000羽を越す。干潟を忙しく動き回りゴカイなどの餌を捕る。



トウネン(旅鳥・全長15cm)

博多湾でよく見られる小型のシギチドリ類。春と秋に渡りの途中で立ち寄る。群れで行動し、干潟を忙しく動き回りゴカイなどの餌を捕る。くちばしが短い。



ミュビシギ(旅鳥/冬鳥・全長19cm)

日本のシギ類で最もよく砂浜を利用する。波打ち際に波が引くと海側に走り甲殻類などの餌を捕り、波が寄せると陸側に退くことを繰り返して活発に動く。



キアシシギ(旅鳥・全長25cm)

中肉中背のシギ類。名前のとおり脚が黄色い。春と秋の渡りの途中で立ち寄る。干潟や浅い水の中でくちばしを泥に差し込んでカニやゴカイを捕まえる。



チュウシャクシギ(旅鳥・全長42cm)

下に湾曲したくちばしの特徴。泥の上や浅い水中を歩きながらくちばしを泥に差し込んで大型のカニをよく捕まえてカニの足を落としてから飲み込む。



アオアシシギ(旅鳥・全長35cm)

名前のとおり脚は緑青色。浅い水中を歩きながら小魚、甲殻類などを捕まえる。時には水の中にくちばしをつけて半開きにしたまま走り回って採餌する。

図鑑6

シギ・チドリ類



オバシギ(旅鳥・全長29cm)

泥質干潟で見られ、くちばしを根元まで泥に差し込んで貝類やゴカイなどを採餌する。他のシギ類よりも特に貝類を好む。採餌も群れで動き回る。



シロチドリ(留鳥・全長17cm)

じっと立ち止まって周りの地面を注視し、小動物を見つけると駆け寄って食べる。これをせわしなく繰り返す。大きな群れで生活し、繁殖期には砂礫地に営巣。



メダイチドリ(旅鳥・全長19cm)

柿色の胸が目印。若干泥っぽい干潟や砂浜を好む。ゴカイを主食とし、巣穴からゴカイを慎重に引き出して食べる。シロチドリと混群を作るものも多い。



ダイゼン(旅鳥/冬鳥・全長29cm)

泥っぽい干潟を好み、干潟を小走りしてふいに立ち止まり地表をつついて採餌する。ゴカイを好む。動作はシロチドリなどよりもゆっくりしている。

ウ類



ミヤコドリ(冬鳥・全長45cm)

赤いくちばしと脚を持つ。潮が引いた干潟や岩礁帯で採餌する。特に貝類を好み、縦に平たいくちばしで二枚貝を上手に開けて食べる。カニやゴカイも食べる。



カワウ(留鳥・全長81cm)

黒く大きな水鳥。水かきを上手に潜って魚を捕まえる。ウ類の翼は他の水鳥よりも水をはじく油分が少ないので石の上などで翼を広げて羽を乾かす。

図鑑7

サギ類



ダイサギ(夏鳥/留鳥・全長90cm)

全身純白。くちばしと頸がひときわ長い大きなシラサギ。水辺をゆっくり歩いて魚を探す。時々立ち止まり、餌を見つけると瞬間的に頸を伸ばして捕まえる。



アオサギ(留鳥/冬鳥・全長93cm)

全体に灰色の大きなサギ。水辺をゆっくり歩いたり、じっと待ち伏せたりしながら魚を捕まえる。捕まえた魚はくわえ直して頭から飲み込む。



クロツラヘラサギ(冬鳥/旅鳥・全長76cm)

しゃもじ形のくちばしを持った水鳥。水の中にくちばしを少し開いて入れ、左右に振りながら歩き回りでくちばしに触れた魚などを捕まえる。生息数は世界で2000羽程度。



ウミネコ(留鳥・全長47cm)

日本海付近の特産種。中型のカモメ類であり、成鳥の尾羽に黒帯が残るのは本種だけ。堤防、岩場などで休息している。「ミャー」と猫のような声で鳴く。



ユリカモメ(冬鳥・全長40cm)

赤いくちばしと脚を持つ全体に白っぽい小型のカモメ類。日本で見られる小型のカモメ類はほとんど本種。夜を海面に浮かんで過ごし、様々な方法で魚を捕る。



コアジサシ(夏鳥・全長26cm)

海岸や砂礫地でコロニーを作り繁殖する。繁殖地に人などが近づくと激しく鳴き、急降下して威嚇する。停空飛行から真っ逆さまにダイビングして魚を捕る。

カモメ類

エコパークゾーンで見られる生き物
～ 二枚貝 ～



アサリ
(浅蜆)

食卓でおなじみのアサリ。和白干潟で食材をゲットしよう！でも、3cm以下のアサリは海に戻してね。



オキシジミ
(沖蜆)

シジミを大型にしたような貝。食べることもできるようです。



サルボウガイ
(猿頼貝)

猿のほっぺのように赤っぽい色の身の貝。缶詰の赤貝として使われる。



ソトオリガイ
(衣通貝)

殻が薄くて透き通っている貝。太い水管が殻に収まりきらずに出てくる。



カキ
(牡蠣)

鍋物などでもおなじみのカキ。実は水質浄化能力も高い。



ホトトギスガイ
(不如帰貝)

殻の模様がホトトギスの羽に似ている。糸を出してマット状に固まる。

<コラム>
カキによる水質浄化実験

濁った水に、カキを入れて1時間たつと



1時間後



こんなにきれいになった！

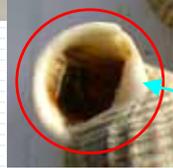
エコパークゾーンで見られる生き物
～ 巻貝 ～

干潟で見られるウミニナの仲間たち

左からウミニナ(海蝿)、

ホソウミニナ(細海蝿)、

ヘナタリ(甲香)



<見分け方のポイント>

ウミニナの殻口には白っぽい滑面があるけど、ホソウミニナにはない。ヘナタリの殻口はラップ状に開いている。



アラムシロガイ
(荒筵貝)

体長1.5cm程度
アラムシロガイは干潟のそうじ屋さん。死んだ貝の肉などを食べて干潟を掃除します。



タマキビガイ
(玉黍貝)

大きさ1-2cm
タマキビガイは貝なのに海水がきらい。海水のかからない高いところにすんで藻などをたべます。

<コラム>

これも貝の仲間だよ

干潟に怪物出現？
いえいえ、これは「フレリトゲアメフラシ」というアメフラシの一種。貝殻は退化しているけど、貝の仲間の軟体動物なんですよ。



図鑑 1 0

エコパークゾーンで見られる生き物
～ 植物 ～



ハマニンニク

(浜大蒜)
高さ1~1.5m
海岸の砂地に生える多年草。ニンニクの葉に似ているけど、実はイネ科。もともとは北の方の植物で博多湾が南限。



ウラギク
(浦菊)
高さ30~60cm
塩水のかかる湿地に生える越年草。「浦」は「海辺」という意味。少し紫色っぽい、かわいい花が咲く。



ハマヒルガオ

(浜昼顔)
花は4~5cm
海岸の砂地に生える多年草。茎を伸ばしながら根を深くはっていくので、砂浜でも安定して生育できる。



ツルナ
(蔓菜)
高さ40~60cm
名前に「菜」がつく植物は食べられるものが多い。食べるとしょっぱい味がする。



ハマゴウ

(浜栲)
高さ60cm以下
砂浜などに生育する低木。冬に葉がなくなると、砂浜を枯れ枝がはっているよう。青紫の花はとてきれい。



シバナ
(塩場菜)
葉長10~30cm
塩分を含む湿地に生える多年草。昔は塩田=塩場の周囲でよく見られた。若葉が食べられる。



ハマボウ

(浜朴)
花は5cm程度
海岸沿いなどで育つ落葉低木。ハイビスカスの仲間。夏に黄色い花が咲く。



ハママツナ
(浜松菜)
高さ20~60cm
海岸の砂地に生える1年草。秋になると赤く紅葉する。これも食べられる。

海の中の植物たち 左から順にアオサ、タマハハキモク、アマモ



図鑑 1 1

< MEMO >

< MEMO >

制作

エコパークゾーン環境保全創造委員会
福岡市港湾局環境対策課